営農だより

水稲の栽培管理について －田植え後から６月下旬までの管理－

田植え後の水管理

田植え後は、保温のため３～４日間は水深３～５ｃｍを保ち、活着後は分げつを促進するため２ｃｍ程度の浅水管理を行いましょう。
（風の強い日、低温の日が予想された時も深水で管理して下さい）

６月上旬頃から間断潅水を！

気温・水温が上昇してくると水田の有機物の分解が進みガスが発生しやすくなります。間断潅水を実施してガス抜きを行いましょう。

中干しを確実に行い、無効分けつの防止と根張りの良い稲体づくりを！

有効茎数（葉が３枚以上の茎）が１６～１８本まで分げつが進むと中干しの時期となります。通常７～１０日間を目安としますが、生育状況や天候・土壌条件によって期間を調整しましょう。５月中旬以降に田植えを行った場合は、中干し時期が梅雨の最中となるため、中干しを長めに行いしっかりと根を張らせましょう。**水の循環を良くする為に、この時期に作溝を作りましょう！**

※近年問題となっている「白未熟粒」予防のため、間断潅水・中干しをしっかりと行い、稲刈りの１０日前まで水を当てることの出来る固く締まった水田に仕上げましょう！

田んぼの雑草図鑑

ホタルイ

ホタルイ（３葉期）

【注意！】
ホタルイは草丈３㎝程度の３葉期までに除草剤を散布しないと取りこぼしが多くなります。

オモダカ

クログワイ

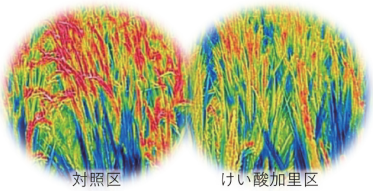
栽培管理については稲作ごよみ 10 ～ 15 ページ、農薬情報はＱＲコードをご覧下さい。

イネの高温障害対策に！

米の収量・品質向上には中干し前の**けい酸加里**施用がオススメです。

近年の猛暑傾向は、白未熟粒の増加など米の品質低下の発生原因となり、島根おおち地区本部管内の一等米比率も 80%を下回る状況です。
そこで、**高温対策の資材として、「けい酸加里プレミア３４」の施用をお勧めします！**

ケイ酸とカリの相乗効果により根張りが良くなり水分や肥料の吸収力を高めるので、稲体の気孔が開き蒸散量が増すことで、稲体の温度が下がる効果が期待できます。
光合成も活発となり、食味向上や収量アップにもつながります。


対照区　けい酸加里区

けい酸加里プレミア34の施用で期待できる効果

- 根張りが良くなり、根の活性を維持する
- 高温による白未熟粒の発生を抑制するなど異常気象に強くなる
- 直立受光態勢が良くなり、光合成が盛んになる
- 稲体の表皮細胞が硬くなることにより倒伏を軽減し、いもち病などへの抵抗性が向上する

施用量　：　20 kg /10a
施用時期　：　出穂前 45 日～ 35 日（中干し前）

※けい酸加里は「く溶性 (緩効性)」の為、流亡の心配がほとんどありません。
※土づくりとして春にけい酸加里を (40kg /10a) 施用した場合も同等の効果が得られます。
（注）「石見高原ハーブ米」には使用できません。

水稲の栽培管理について　～ 田植え後から６月下旬までの管理 ～農薬情報

除草剤（中・後期）

除草剤名	使用時期	使用量（１０ａ）	使い方・注意事項
セカンドショットＳ ジャンボＭＸ	移植後１４日～ノビエ３．５葉期 但し収穫４５日前まで	小包装（パック） ２０袋 （５００ｇ）	中期ジャンボ剤５～６㎝の灌水状態で散布。クログワイ、オモダカ等の多年生雑草に高い効果をしめす。
ウィードコア１キロ粒剤	移植後７日～ノビエ４葉期 但し収穫６０日前まで	１kg	すばやい効果を示し、ノビエ・ＳＵ抵抗性を含む広葉雑草や多年生雑草まで動じ防除ができる
レブラス１キロ粒剤	移植後１４日～ノビエ４葉期 但し収穫６０日前まで	1kg	ホタルイ・クログワイ・ノビエ・オモダカに強い成分を混合し殺草力を高めた中後期除草剤
クリンチャー１キロ粒剤	移植後７日～ノビエ４葉期 但し収穫３０日前まで	１kg	**ノビエ専用剤** 水の出入りを止めて湛水状態で散布。 ハーブ米、つや姫も使用可能
モゲトン粒剤	ウキクサ類・藻類の発生始～発生盛期 但し収穫４５日前まで	１～３kg	藻類・表層剥離に効果がある。
バサグラン粒剤・液剤	移植後１５～４５日まで（液剤は収穫５０日前）	３～４kg 500～700㎖ 水 70～100ℓ	落水状態（足跡に水が残っている程度）で散布。イネ科雑草を除く多様な多年生雑草に効果がある。 ハーブ米、つや姫も使用可能
クリンチャーバス ME 液剤	移植後１５～ノビエ５葉期 但し収穫５０日前まで	１，０００㎖ 水 70～100ℓ	落水状態（足跡に水が残っている程度）で散布。ノビエ・広葉雑草に効果あり。ハーブ米、つや姫も使用可能

いもち病の予防（６月中旬頃）

いもち病は、気温２５～２８℃で降雨が連続すると発生しやすくなります。いもち病の予防剤入りの箱処理剤を使用していない場合は、６月中旬から７月上旬頃に特に注意していただき、「コラトップ粒剤」等の予防剤を散布して下さい。　　※ＪＡ育苗センターの主食用苗については、いもち病の予防剤入りの箱剤を使用しております。